

令和6年度小松市立第一小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	積極的な生徒指導による主体性の育成 ・生徒指導の4つの視点（自己決定・自己存在感・共感的な人間関係・安全・安心な風土の醸成）を生かした学年・学級経営や授業づくりに努める。 ・児童が主体的に企画運営した取組を昨年度よりも増やす。 ・全教職員が、子どもに寄り添い温かい声かけをする。	・共通した指導ができるような丁寧な提案を意識したことや、児童の実態を加味した目標を学年団で学期ごとに設けていることで、学校として児童に向き合っていく姿勢を共通理解することができている。また、研修会等を利用して、生徒指導の4つの視点を生かした授業や学級経営の仕方に関する学びを深めてきた。 ・高学年を中心として、「児童の主体性」という意識を持って指導にあたっている。各学年での実行委員の活動や委員会活動など、活発な行動がとれている。 ・児童アンケートにおける「先生は、あなたのいい所を認めてくれますか。」や「あなたはクラスの仕事や委員会の仕事に自ら考えて取り組んでいますか。」の質問に対しAB群が90%以上と高水準である。CD群にきちんと目を向け、アンケート面談等を利用してしながら、その背景を把握し、いけるように努める。	
特別支援教育	一人一人のよさを認め、引き出すための特別支援教育の充実 ・支援や配慮が必要な児童について担任やコーディネーターを中心に適切に実態把握し、その子に応じた支援の実現を目指す。 ・生徒指導と協力し、児童理解を深め、児童理解の会にて適切な支援について全職員で共有し、組織的な校内支援体制を強化する。（年間計画に沿って適切に会を運営していく）	担任やコーディネーターを中心に組織的に動くことができた。児童理解の会を職員会議後に行い教員間で支援や配慮が必要な児童についての共通理解ができていると考えられる。支援員の配置についても、児童や学級の実態に応じて学期の途中で見直すことができたのはよかった。教員アンケートにおいても、特別支援教育に関する質問で肯定的な回答が100%と97%と高かった。今後も継続していきたい。夏休みに支援や配慮が必要な児童についての具体的な目標や学校全体でサポートしていくための体制づくりを明確にすることができたので、そのことを踏まえてより組織的に動けるようにしていきたい。	
保健健康教育	望ましい生活習慣の確立 ・発育測定時に、学年に応じた保健指導を行う。 ・児童が自らの生活習慣を見直すことができるよう、長期休みを利用して健康チェックを行う。 ・メディアと適切な関わり方ができるよう判断力を養い、望ましい生活習慣につなげるため、学年に応じた指導の機会を設ける。	・発育測定での保健指導は9月以降実施予定のため、各学年と話し合いながら指導内容を決めていく。 ・メディアとの関わり方において、全教師が指導の機会を設けていると回答している。「メディアの約束を守れている」について肯定的な回答は児童が85%、保護者が70%となっている。家庭での取り組み内容が充実するように、指導を続けていきたい。	
道徳・人権教育	心を育む道徳教育 ・道徳教育及び道徳科の指導方法や評価の在り方についての道徳通信を必要に応じて発行する。 ・外部講師を招聘するなど、校内研修を開催し、道徳の授業改善をめざす。	・教員アンケート「道徳教育及び道徳科の指導方法や評価の在り方について道徳通信を発行したり研修を行ったりする」の項目について、肯定的な回答が71%であった。2学期に校内研修を実施し、本校の道徳教育で大切にしたいことを確認したい。それを踏まえ、模範となる指導案を作成し、道徳教育の充実にも努めたい。 ・本校の道徳教育重点目標の観点について実践したことを道徳通信として発行していきたい。	
体力向上	体力・運動能力の向上 1校1プランの取り組みを推進し、体力・運動能力の向上を図る。 ・多くの児童に「できた!」という経験を積ませ、仲間と共に運動に取り組む楽しさを味わわせる。 ・体力テストの結果に基づき、弱点を補強するための運動を授業に取り入れ、体力の向上を目指す。	・教師の取り組みの意識は、肯定的な回答が100%であったのに対し、児童、保護者のアンケートで「体を動かすのが好き」と答えた割合は90%である。教師の取り組み方が、児童の意識に少しでも反映していけるよう、継続して取り組んでいきたい。 ・今年度の体力テストの結果も踏まえ、2学期以降全学級で取り組みを行ってきたい。	
情報教育	GIGAスクール構想の充実 ・より日常的にICTが使用できるような環境の充実を図り、日々学習用端末を活用した授業に取り組む。 ・校内研修の機会を定期的に設定し、教職員の情報活用指導能力の向上を図る。	・教員アンケート「学校として、校内研修の機会を定期的に設定し、教職員の情報活用指導能力の向上を図っている。」の項目について、肯定的な回答が97%であったのに対し、「あなたは、日常的にICT機器を活用した授業に取り組んでいる。」の項目については、肯定的な回答が76%であった。研修の内容を吟味し、教職員が今まで以上にICTを活用できるようにしていきたい。 ・ICTを活用しやすいような環境の整備を2学期以降も行っていきたい。	
家庭と地域社会の連携	社会に開かれた教育課程の実現 ・地域人材とのつながりを広げ、地域のよさに着目したカリキュラム作りを行う。 ・生活科や総合的な学習の時間、特別活動において、探究的な学習を意識し、学びの充実を図る。	・町内会長に協力を仰ぎ、今年度新しく社会見学に協力いただける農家とつながることが出来た。 ・地域（町内会）と連携して通学路の安全について点検し、より安全な通学路となるよう呼びかけ看板等の設置を行うことができた。 ・2学期からは、地域教材の良さを生かして、より探究的な学習の充実を進めていく。	
人材育成	効果的な人材育成のための場の設定と工夫 ・各ステージに応じたタイムリーな研修、および学校課題に応じた研修のあり方の工夫を行う。 ・学年部会や分掌部会を充実させ、日常的にメンター制が行われるようにする。	・日常的にベテランが若手に対し、指導や助言をする機会がよく見られている。 ・各種研修も、ニーズや時期に見合った内容のもと実施されている。 ・今年度は、主任会議と同時間帯に若プロの時間を設定したことで、定期的に若手育成のための研修の場を設けることができている。	

学校関係者評価	【中間評価】 ・通学路の安全点検の取組がすばらしい。各町の協力体制がすばらしい。 ・人材発掘と言っても簡単な話ではないと思われるが、町内会長と連携しながら人材を探そうとする努力はすばらしい。 ・習熟度別の指導は、進んでいる子どもにも少し苦手な子どもにもメリットがあり、効果がある。授業を見ている子どもたちが生き生きしていた。 ・3年生の子どもたちがタブレットを使って意見交流をしていた。新しい教育のスタイルが浸透してきているのを実感した。 ・元日の地震の際、孫が家の机の下に潜る様子があり、学校での訓練の賜物だと感じた。しっかりと指導されていて感謝している。
---------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------